

「地域課題分野」(平成24年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
河道内樹林化に対応した流量観測技術の高精度化・高効率化に関する研究（研究期間：H24年～H25年）	東京理科大学 准教授 二瓶 泰雄	B
<研究概要> 河道内の樹林化の進行により、流下阻害や礫河原喪失などの様々な問題が生じており、重要な課題の一つに流量観測法の見直しが挙げられる。河道内樹林化に対応した流量観測法の開発にあたり、流速計測技術と流量内外挿技術双方について検討を行った。前者としては、電波流速計に着目し、現地観測・室内実験により、計測特性と環境依存性について検討した。後者としては、力学的内外挿法（D I E X法）の適用性をA D C P観測データを用いて検討し、有効性を示した。		
<事後評価コメント> 流量観測技術の高精度化・高効率化に向けた基礎的研究としては一定の成果があったと評価できる。 しかしながら、河道内樹林化に対応した流量観測技術の開発という視点からはなお検討すべき事項が残されていると考えられ、今後更なる研究の発展を期待する。		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い